

5 . 木更津港への要請と課題及び今後の検討方針

5 - 1 各地区の整備状況及びポテンシャル

吾妻地区

木更津駅から約700mの距離にある
静穏水域が確保されている
吾妻地区北側は漁業基地となっている
木更津市（海岸5ヶ所）に訪れる潮干狩り客は年間約30万人である
中の島公園は市民の憩いの場として利用されている
鳥居崎海浜公園と中の島公園を結ぶ「中の島大橋」があり、潮干狩り客はこの橋を渡り潮干狩りに行く
毎年8月に「木更津港まつり花火大会」が開催されており、約25万人の人出で賑わっている



富津地区

水深7.5mの岸壁が2バース整備されており、うち1バースは耐震強化岸壁である
総合静脈物流拠点港(リサイクルポート)に指定されており、環境産業企業が立地している
背後には広大な工業用地が整備されており、すでに94%が売却済み(平成20年8月現在)である。



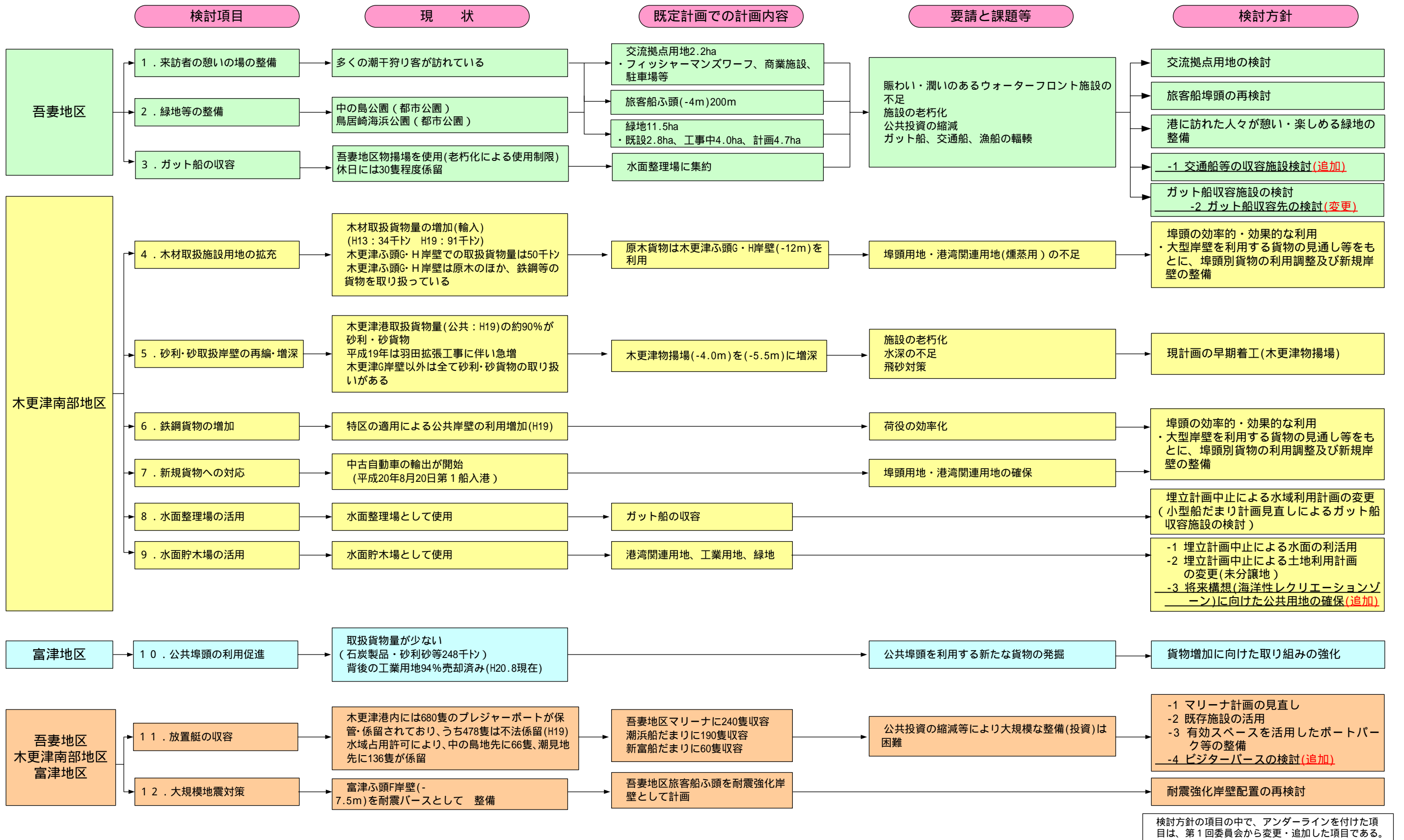
木更津南部地区

首都圏への砂利・砂の供給基地となっている
水深12mの大型バースが2バース連続で整備されている
物流コストの削減を図るため「木更津港湾物流効率化特区」が指定されている
利用転換が可能な広大な木材水面整理場及び貯木場の水面がある
賑わいの核となる大規模商業施設の立地が計画されている。



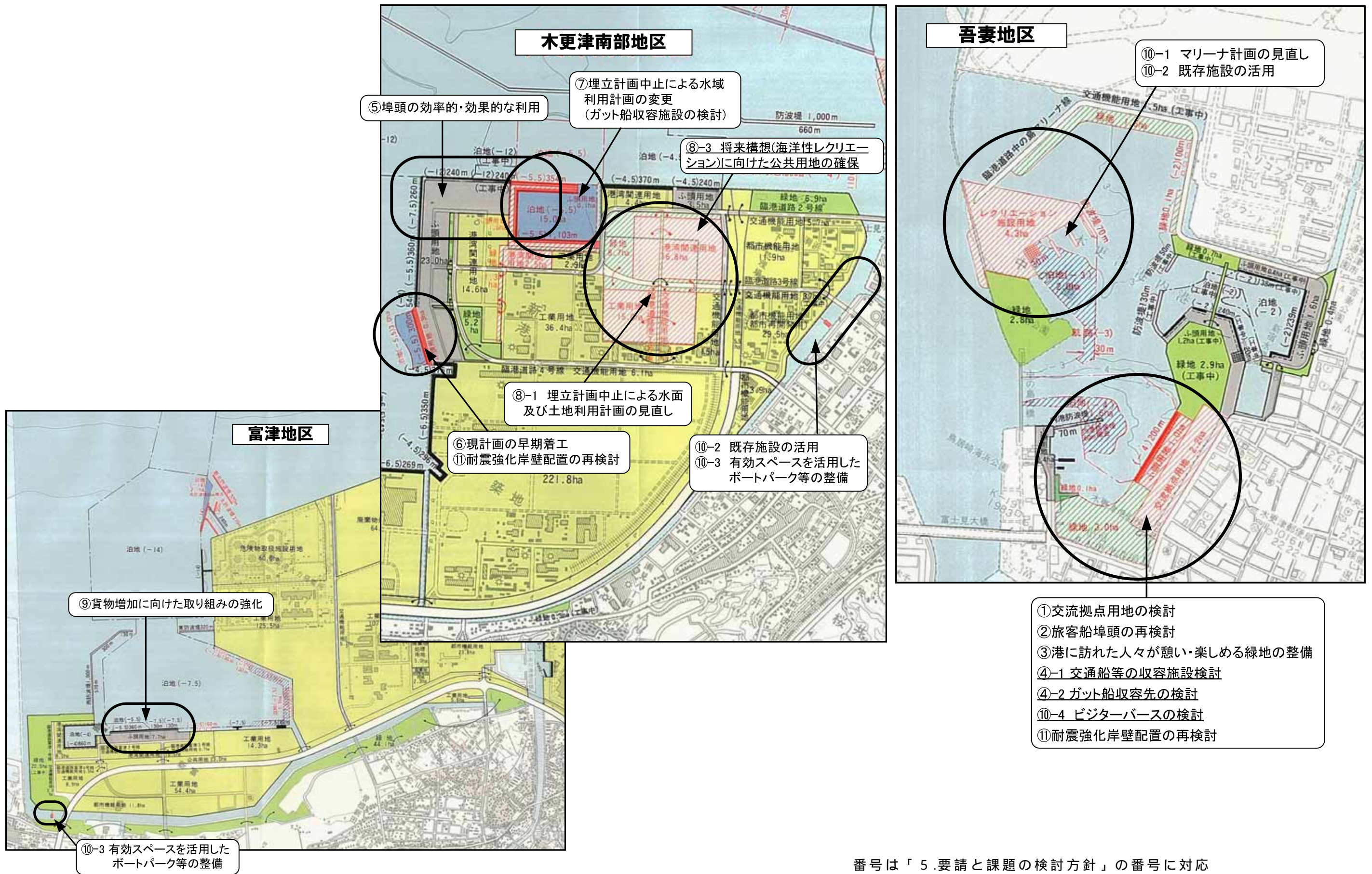
5 - 2 各地区への要請と課題及び今後の検討方針

現在の木更津港の利用状況、利用者からの要望及び今後再整備を行う上での問題点・課題を整理すると以下のとおりである。



検討方針の項目の中で、アンダーラインを付けた項目は、第1回委員会から変更・追加した項目である。

木更津港への要請と課題を踏まえた今後の検討方針



番号は「5.要請と課題の検討方針」の番号に対応
アンダーラインを付けた項目は、第1回委員会から変更・追加した項目

6 . 要請と課題への対応策（今回計画）

6 - 1 検討方針における主要施設の必要性と配置計画

施設計画の位置づけにあたっては、「第1回委員会」「パブリックコメント」「地元の意向」等を踏まえ検討を行った。

吾妻地区

港のシンボルとして施設計画を位置づける。

交流拠点用地の検討

施設の必要性

- ・「吾妻地区を木更津市の活性化のための賑わいの場に」「人が集まれる施設の整備」「交流の場の整備」等が要請されている。

配置

- ・既存施設との連携や、歩行者動線等を考慮して、緑地整備と合わせ、駅から近い位置に配置する。

旅客船埠頭の再検討

施設の必要性

- ・クルーズ船等を誘致したイベントを開催しているが、既存の物揚場しか係留場所がない。

イベント	開催日	参加人数 (人)	内容
「べいくりん」体験乗船会 (国土交通省所有)	H20.8.27	32	東京湾の清掃船「べいくりん」に乗船し、ゴミ回収作業を見学
花火大会レストラン船 クルーズ	H20.8.15	106	木更津港まつりの花火大会にあわせ、レストラン船を内港に誘致
内港クルージング	H20.8.15	130	「まち」「みなと」の関わり合いの学習を目的に木更津港内港からプレジャーボートの体験クルージングを実施
海上保安庁巡視船「やしま」艦内見学会	H20.8.15	1,026	海上保安業務に関する理解を深めてもらうため、木更津港まつりの一環として巡視船「やしま」の艦内見学会を実施
ヴァンテアンクルーズ	H19.8.15	400	木更津港まつりの花火にあわせて、東京竹芝桟橋で就航しているレストラン船「ヴァンテアン」を誘致

配置

- ・交流拠点用地と連携の図れる位置に配置する。

緑地の整備

施設の必要性

- ・「新しい顔となるようなエリアの整備」「木更津市のシンボルとしてきれいに整備」「親水公園の整備」等が要請されている。

配置

- ・既存の都市公園も含め、吾妻地区全体における各緑地がネットワークを形成するような配置とする。
- ・駅から一番近い位置には交流拠点用地と一体となった緑地広場を配置する。

- 1 交通船等の収容施設検討

施設の必要性

- ・現在係留している水域に緑地や交流拠点用地を配置することから、新たな収容施設の整備が必要である。

現係留場所：吾妻地区奥部

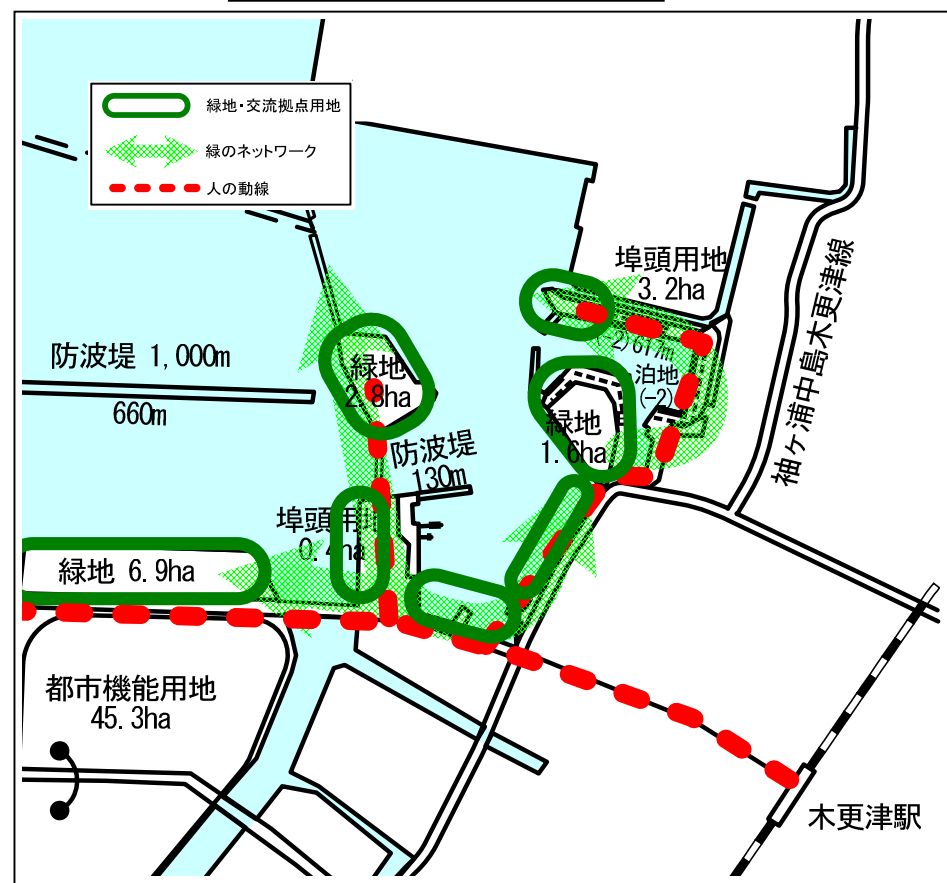
現係留隻数：交通船等(46隻)

配置

- ・既設のポンツーン等の活用を図るため、旧フェリー埠頭から内港防波堤の水域に配置する。



(参考) 緑のネットワーク



- 2 ガット船収容先の検討

施設の必要性

- ・木更津港には約 50 隻程度のガット船が運航しており、吾妻地区及び木更津南部地区の岸壁に係留している。
- ・現状の課題は、係留施設の老朽化、漁船・プレジャーボート・交通船等の輻輳による航行安全上の問題があり、各船の棲み分けが要請されている。

現係留場所 吾妻地区 34 隻
木更津南部地区 18 隻
富津地区 2 隻

配置

- ・吾妻地区の位置づけを踏まえ、「物流ゾーン」の木更津南部地区に集約する。
- ・現港湾計画で位置づけられている木材港水面整理場に小型船だまりを再配置する。

木更津南部地区

新規大型岸壁の整備

施設の必要性

- ・特区の指定に伴う鋼材等の輸出貨物の増加、輸送機械(中古車)の増加が見込まれる。
- ・今後、物流機能を強化していくためには、船舶の大型化に対応した岸壁の整備が必要である。

配置

- ・効率的・効果的な利用を行うためには、既存施設を生かした利用を図る必要がある
- ・小型船溜まり計画への影響を考慮して比較を行う。
- ・比較検討の結果、3案を選定した。

- 案 1 : 水面整理場埋立案
- 案 2 : 木更津ふ頭物揚場改良案
- 案 3 : 木更津ふ頭 E・F 岸壁改良案

	長 所	課 題	評価
案 1	既設の大型岸壁に隣接しているため、効率的な利用が図れる。	水面整理場に計画している小型船だまりに必要な面積を確保することが難しくなる 荷捌地の埋立をするため、整備コストがかかり、供用開始まで長期間かかる可能性がある	
案 2	荷捌地の埋立がないため、整備コストが抑えられる	公共物揚場では山砂を取り扱っており、ここに大型岸壁を整備すると荷捌地、野積場等の代替地を確保することが難しい 既設の大型岸壁と距離が離れており、効率的な利用が難しい	
案 3	既設の大型岸壁に隣接しているため、効率的な利用が図れる 荷捌地の埋立がないため、整備コストが抑えられる 小型船だまりといった他計画や内貿貨物への影響が軽微である	岸壁前面が内航船の錨泊地となっているため、大型船の入港時の航行安全確保が必要になる。	

候補地比較



海洋性レクリエーション活動への支援（プレジャーボートの収容）

小型船だまり計画によるガット船収容施設の再検討【木材港水面整理場】

施設の必要性

- ・「 - 2 ガット船収容先の検討」において記述

配置

- ・「物流ゾーン」の砂利・砂取扱埠頭から近い場所で利便性が最適な水面整理場に再配置する。
- ・水面貯木場と水面整理場が存続することで、「原木の水面取り荷役」と共存することになる。

将来構想に向けた公共用地の確保

施設の必要性

- ・木材港水面貯木場については、「長期空間利用構想(案)」において、海洋性レクリエーションゾーンとして位置づけている。
- ・将来の水面利用と関連した用地の確保を図る必要がある。

配置

- ・緑のネットワークや人の動線を考慮し、水面貯木場水際線沿いに公共用地を確保する。



- 3 有効スペースを活用したポートパーク等の整備

施設の必要性

- ・マリーナ計画の廃止に伴い、放置艇の収容先の確保が必要
- ・ガット船・漁船とプレジャーボートの棲み分け、適正なプレジャーボートの収容が要請されている。

木更津港に係留されているプレジャーボート (H19.11調査)	680隻
水域占用許可	202隻
放置艇	478隻

配置

- ・既存水域占用許可施設の継続利用を前提に、残る放置艇の収容先を検討する。
- ・収容先として、下記の3箇所で収容を図る。

吾妻地区自衛隊前緑地を活用したポートパーク整備

- ・工事中の自衛隊前緑地を活用したポートパーク整備

潮浜船だまり（既定計画）

新富船だまり（既定計画）

